

令和3年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修 ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）

「地域移行支援 in 国分寺～地域移行支援ワーキング・グループ活動開始報告」 報告書

方 法	YouTube を使用したオンデマンド配信
配信期間	令和3年6月21日（月）午前10時～6月28日（月）午前10時まで
主 催	国分寺市障害者基幹相談支援センター
協 力	社会福祉法人はらからの家福社会 地域生活支援センタープラッツ
	国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会

1. 目的

- ・地域移行支援の現状を把握し、支援者の地域移行支援意欲の喚起を促す。
- ・国分寺における地域移行支援の動きを、精神科病院をはじめとする関係各所に発信し、地域移行支援の実践につなげる。
- ・研修を通して、国分寺における「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」の具体化につなげる。（国分寺市障害者地域自立支援協議会精神保健部会との連動）

2. 研修内容および講師

① 研修開会挨拶

国分寺市障害者基幹相談支援センター センター長 銀川 紀子

② 「東京都における地域移行支援の取組状況」

講師：津川 孝治 氏

東京都多摩総合精神保健福祉センター 地域体制整備担当

③ 「東京都地域移行体制整備支援事業から見た、都内の「ピア活動」の状況について」

講師：毛塚 和英 氏

社会福祉法人はらからの家福社会 地域生活支援センタープラッツ 東京都地域移行コーディネーター

④ 「地域移行支援 in 国分寺～国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会の活動を軸に～」

報告：伊澤 雄一 氏

国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会長

社会福祉法人はらからの家福社会 総合施設長

⑤ 国分寺市福祉部障害福祉課 挨拶

国分寺市福祉部障害福祉課 課長 石丸 明子 氏

3. 研修動画時間

60 分

4. 参加状況

参加申込人数：125 名（市内：63 名，市外：61 名）※詳細は別紙参照

	事業所数	市内	市外	参加人数
相談支援事業所・地域活動支援センター	4	3 ヶ所	1 ヶ所	14 名
精神科病院・クリニック	12	2 ヶ所	10 ヶ所	33 名
訪問看護ステーション	1	1 ヶ所	0 ヶ所	2 名
地域包括支援センター	5	5 ヶ所	0 ヶ所	7 名
障害福祉サービス事業所	9	8 ヶ所	1 ヶ所	32 名
基幹相談支援センター	10		10 ヶ所	21 名
行政	6	2 ヶ所	4 ヶ所	15 名
その他	1	0 ヶ所	1 ヶ所	1 名
合計	48	21 ヶ所	27 ヶ所	125 名

5. 再生回数

173 回

6. 研修内容

報告①「東京都における地域移行の取組状況」（15 分）

講師：津川 孝治 氏 東京都多摩総合精神保健福祉センター 地域体制整備担当

精神障害者の地域移行に関する国の動きと東京都の取組の経緯に触れながら，東京都の障害福祉計画の成果目標や自治体（圏域）別の地域移行支援の現状等についての報告があった。

長期入院患者の高齢化，若年層の入院患者と比べ，高齢の入院患者の地域移行が難しく長期化していること，また地域移行を引き受ける一般相談支援事業所が少なく，計画相談を受ける事業所が手一杯など地域側の体制の問題や，地域移行支援の制度の使いにくさが課題として挙げられた。

地域移行体制整備支援事業については，平成 30 年度から地域移行コーディネーターの役割が，病院支援から地域サポートに変わったことで，地域との連携が広がってきている。その一方で，病院へのアプローチ機会が減ってしまった等の課題もあり，令和 3 年度よりピアサポーター活用アドバイザー事業が開始された報告があった。

まとめとして，長期入院となっている高齢者層への効果的な支援体制を検討すること，地域の実情を踏まえつつ，「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下，「にも包括」という）の構築」に向けた協議の場等を活用していくことが必要であることが示された。そして，地域生活を支えていく上での支援のあり方等について，分野を超えて情報共有し，地域の支援力向上に向けて取り組んでいくことの重要性について確認・共有した。

報告②「東京都地域移行体制整備支援事業から見た，都内の「ピア活動」の状況について」（17 分）

講師：毛塚 和英 氏 地域生活支援センタープラッツ 東京都地域移行コーディネーター

東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業の取組の変遷や地域移行コーディネーターの関わり，令和 3 年度に新たに創設されたピアサポーター活用アドバイザー事業，体制整備支援事業から見た，都内のピア活動の状況等について説明があった。

ピアサポーター活用アドバイザー事業は，精神科病院に対し，ピアサポーターの有効性の普及啓発や，活動に係る助言や相談等の支援，地域で実施しているピアサポート活動の情報収集及び情報提供を行う事業である。また，ピアサポーターの活用については，厚生労働省が推進する「にも包括」を構成する要素として示されており，精神障害者が地域の一員として，安心して自分らしい暮らしを実現し，住民一人ひとり

の生きがいや地域共生社会の実現に寄与するためにも有効であると説明があった。

都内のピア活動の状況については、ピアサポーター養成研修や精神科病院の長期入院者に対する動機付け支援等、いくつかの活動内容の紹介があった。今後ピア活動を実施する事業所を支えていくためには、経済的な課題も解決していくことが必要である。

まとめとして、円滑に地域移行を進めていくためには、入院患者と相談支援事業所が会う前の動機付け支援が必要であり、そこにピアサポーターが関わるのが有効であること、そのためにピアサポーターの力を発揮できる体制を整えていくことも重要であることを確認・共有した。

報告③「地域移行支援in国分寺

～国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会の活動を軸に～」（18分）

講師：伊澤 雄一 氏 社会福祉法人はらからの家福社会 総合施設長 / 精神保健福祉部会 部会長

国分寺市における精神保健福祉部会の取組と、令和2年度に発足した地域移行支援ワーキング・グループの取組について報告があった。

国分寺市では、精神保健福祉部会を「にも包括」の構築に向けた協議の場と位置づけ、地域移行に関わる研修（地域移行ネットワーク研修、北多摩西部圏域研修）と連動した動きを意識しながら、システム構築の道筋を描いている段階であることを共有した。

令和3年度の精神保健福祉部会の取組として、①地域生活支援拠点の精神障害者への活用方法の検討、②地域移行支援ワーキング・グループによる精神科病院へのアプローチと具体的な課題の把握、③新型コロナウイルス感染拡大を含む災害時における精神障害者への支援の課題の抽出と対応、④当事者から生活状況及びニーズのヒアリングを実施し、今後の支援について「にも包括」の構築を意識しながら協議していくと説明があった。

地域移行支援ワーキング・グループの活動として、これまでに2回精神科病院へ訪問し、病院側が感じている退院の阻害要因や、地域の支援者に求めること等について、医療スタッフからヒアリングを実施した。その中から見えてきた課題として、居住支援（住まいの確保と生活支援）と、入院中からの外部との接点を持てる関係づくりがあり、退院には金銭・食生活・医療との連携・支援関係の保持等を整えていくことが重要であることが挙げられた。

令和2年度の部会の中で実施した当事者ヒアリングからは、人間関係や病気の自己受容、社会からの離脱感、症状・副作用等の困難状況があったこと、地域に希望することとして、ゆっくり休息できる居場所、緊急時の対応も含めた見守り体制、ピアサポートの整備、家族支援等、地域支援力の強化が求められていることを共有した報告があった。

まとめとして、これまでの部会の取組の成果から見えてきた課題は、「にも包括」の構築に必要な要素であること、精神障害のある方が、なじみの町でいつまでも生活し続けられること（Aging in place）を、我々支援者が追求していくことが大切であることを確認・共有した。

7. 今後に向けて

昨年度から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一堂に会しての研修スタイルを変更し、新たにYouTubeを使用したオンデマンド形式での研修開催とした。オンデマンド形式の研修にしたことで、例年よりも多くの参加申込があり、特に精神科病院からの参加が多かった。

各講師の話から、高齢化している精神科病院の長期入院患者への対応として、地域包括支援センターとの連携が必要であることや、地域移行支援においてピアサポーターを活用することの有効性等を共通の認識として持つことができた。

また、地域移行支援ワーキング・グループを含む、国分寺市障害者地域自立支援協議会における精神保健福祉部会の取組を共有し、さらに障害福祉課からの挨拶により、国分寺市では行政も含めて、地域移行支援に取り組んでいる姿勢を見せることができたことは、今後に向けた大きな一歩であった。

今年度の研修は、精神科病院に国分寺市の地域移行の取組（地域移行支援ワーキング・グループが発足したこと）を知ってもらうことに重点を置いていたため、精神科病院から多くの参加があったことは非常に良かったが、一方で、相談支援事業所からの参加が少なかった。今後、研修スタイルも含めて研修内容を見直していく必要がある。

令和3年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修会 ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）
～地域移行支援 in 国分寺～地域移行支援ワーキング・グループ活動開始報告～

アンケート集計結果

参加申込：125名 アンケート回収：19名（回収率15%）

1. 本日の研修はいかがでしたか。

たいへん参考になった：12名（63%）
参考になった：7名（37%）
普通：0名
あまり参考にならなかった：0名
その他：0名

2. 今後、実際の業務で取り組みそうなことは見つかりましたか？具体的にお書きください。

見つかった：13名（68%）
見つからなかった：2名（11%）
どちらともいえない：4名（21%）

- ・伊澤さんがやっていたような病院への訪問などを通して、医療関係者と良い関係を築けたら、地域移行、退院が大きく前に進むのではと思った。そのような機会を作るためには、行政の協力が大きな意味を持つてくると思われる。国分寺の担当課長のような、前向きな行政担当者を増やすことも必要かと考えた。
- ・ピアサポートの大切さの強調に、そこにヒントがあるのかもしれないと思った。
- ・入院生活の長い人にはそれなりの「手厚さ、緻密さ（よく聞き取れなかったが）、ノウハウ」という言葉に、なるほどと思った。今関わっている方を考え合わせ自分が単純に考えすぎていた部分を自戒した。
- ・国分寺市として、病院に向けて退院支援の呼びかけを行っている姿と、相談支援専門員に対しても一緒に支援に取り組んでいこうというメッセージがあったことを受けて、自分たちが頑張って請け負わなくてはいけない負担感のようなものを持つ必要はなく、国分寺市全体で支援を考えていけばよいと、勇気づけられた。
- ・高齢期の地域移行支援の事例を共有する機会を得たいと思った。
- ・もっともっと病院と地域の方同士で「話をする」ということが必要だと思った。
- ・近隣との連携はかなり進んでいるが、帰住先の自治体等とのピア活動の連携も今後活用していきたいと思った。
- ・にも包括構築推進、協議の場の持ち方、精神科病院へのアプローチ等々、参考にさせていただきたいと思う。ピアサポーター活用アドバイザー事業も詳しく知ることができてよかった。
- ・地域移行支援の実施の際に、退院を実現するための必要な要素として食生活などがあがっていたが、単に食事の提供方法を考えるのではなく、ご本人ができる場所も考慮しながら食材の調達方法の情報提供なども退院実現への要素であるとの話を聞き、方法の提供だけでなく様々なインフォーマルを含めた社会資源や情報の提供も必要だと学んだ。今後、地域移行支援を行う際には、色々な視点で情報を提供していければよいと思った。
- ・共同生活援助の職員だが、どなたでも安心して、退院できるような一つの受け皿として、窓口を広げて、現場の支援の体制も質を上げて整えていく必要があると実感した。また、受けるだけではなく、市民を迎えに行く、いつでも待っているというメッセージを送れる、手伸ばし支援も探していきたいと思っている。また、協議会や部会含め、国分寺市の「にも包括」の構築のための情報も常に意識しようと思った。障害の有無に関係なく、地域の一員として、自分らしく暮らせるサポートをしていきたいと思っている。

- ・精神保健福祉部に地域移行支援のワーキング・グループをつくり、研修の連動を図るなど、「持続可能な体制づくり」に取り組んでいることが非常に印象的だった。それぞれの地域の実情は異なるにしても「地域として地域移行支援・地域定着支援に取り組む土壌を構築する」取り組みは、「にも包括」における重要な要素であることをあらためて確認し、その効果的な方法としての具体的な体制づくりに、自分の活動する地域らしさを活かして実践したいと思った。
- ・病院や当事者への聞き取り。
- ・当事者の声を反映させる取り組み。
- ・病院内では病棟ごとに毎年ピア講演会を実施してきた。病院近隣の事業所の方や、その病棟から退院され当院の訪問看護などの社会資源の利用をしている方をお願いし、直接的な繋がりて、自前で企画してきた。コロナ禍において、中止せざるを得ない状況にあったが、都事業のピアサポーター活用アドバイザー事業が開始したことで、対面以外のやり方がないか、今までのやり方よりもさらに良いやり方があるか等、相談していきたいと感じた。

3. 国分寺市の地域移行の取組に対してご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・ピアサポーターの方の具体的な取り組み事例などが聞けると大いに参考になると思われる。プライバシーの問題などあろうが、少し一般化するなどして、ピアの活動の意義をもっと周知してほしい。
- ・石丸課長の呼びかけに感動した。本人の希望の可否もあると思うが、可能であれば、実際に長期入院している人に会いに行き、現在の入院生活の状況や意向を直接伺う機会を持ってほしい。退院支援においては特に、市が状況を把握してくれているかそうでないかで、相談支援を担当する際の気持ちが大きく変わると感じている。相談支援事業所側の課題もあるなか、具体的な「一緒に取り組む」という形を一緒に考えて作っていけるように、意識を共有していけると良いと感じた。
- ・基幹相談支援センター、事業所、行政が組織的に取り組まれていることがすごいと思った。
- ・ピア国分寺の利用をはじめ、退院支援で連携させていただいている。今後とも連携をお願いしたい。
- ・地域移行支援において、ピアサポートの重要性や必要性を感じているが、当区ではピアサポーター養成などが盛んではない現状がある。国分寺市をはじめ、豊島区や世田谷区などはうまく都や区の事業を利用してピアサポーターの養成・活躍ができていていると思った。当区でも地域移行支援を促進するためにもピア活動をうまく活用していきたいと思う。
- ・部会を軸に、各種アンケートなどの調査、ヒアリング、歓談等、また、基幹とプラッツの連携を基に、国分寺市らしい地域移行の取り組みが行われていると感じている。基幹が主軸となった平成24年度以降の体制づくりには感心する。ワーキング・グループも素晴らしく、このような動きが現場や当事者にももう少し情報が伝わる形になればと思う。部会は変わるが、就労支援部会でも、就労支援事業所が地域移行支援をできることもあるはずなので、就労支援事業所とも情報提供ができ、国分寺市で盛り上げていくことができれば嬉しい。国分寺市では、総合支援法と都型のショートステイ事業があり、それらがさらに有効に使えるような情報提供もあればよいと思っている。地域移行だけではなく、地域定着としてのピア活動も大事であると思われるので、その育成や予算のバックアップもあれば良いなと思っている。
- ・丁寧な取り組みの重なりが伝わる素晴らしい実践だと思った。具体的な事例や今後の展開、またピア活動の具体的な実践など、ますます勉強していきたいので、またの機会を期待している。

4. 今後の研修で取り上げてほしい内容や研修会へのご意見・ご要望等ご自由にお書きください。

- ・最初「にも包括」が分からず疑問に思いながら講義を受けていたが「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」と理解することができた。地域包括支援センターの職員になったばかりなのでこの研修での学びをこれからの取り組みに生かしていきたい。

- ・ご家族の声を聞くことは学びと刺激になるので、いずれ取り上げていただけると有難い。
- ・病院の方や高齢分野の方、行政の方などと一緒に話し合いを行う研修が早くできると良い。
- ・当院では、ピアの方を招いての講演会や個別支援を行っていたが、コロナ感染の状況により休止が余儀なくされている。その点においてのアプローチの方法があれば、教えていただきたい。
- ・グループホームの通過型と滞在型の目的、自立させるための取り組みと問題点、そこへのアプローチ方法、自立の定義、移動支援と同行支援についての基礎と取り組みや考え方。
- ・ピア活動に興味がある当事者は多くいる。LP のような地域移行に特化した構造的なピアサポートだけではなく、もっと広い範囲での自然的なピアサポートも大事であると思う。採算や体制づくりも大事だが、当事者のどなたでも参加できる研修があればよいと思っている。また、現場の職員は、中堅がやめてしまうと事業所の運営や当事者のサポート体制に影響が及んでしまうこともある。そういう意味では、メンタルヘルスの研修もあればよいなと思っている。
- ・「にも包括」への取り組み方、地域生活支援拠点の活用など、効果的な体制づくりのポイントなどを勉強したいと思う。
- ・合理的配慮の実例について

5. 所属している団体について教えてください。

精神科病院：2名 メンタルクリニック：2名 地域活動支援センター：3名
 障害福祉サービス事業所：4名 訪問看護ステーション：2名 地域包括支援センター：2名
 行政機関：2名 その他：4名

6. 職種について教えてください（複数回答可）。

精神保健福祉士（PSW）：10名 医療ソーシャルワーカー（MSW）：0名 医師：0名
 看護師：0名 保健師：0名 相談支援専門員：3名 ケアマネジャー：2名
 支援員：3名 行政職員：1名 その他：4名

7. 視聴した日付について教えてください。

6月21日（月）：4名 6月22日（火）：2名 6月23日（水）：2名
 6月24日（木）：1名 6月25日（金）：5名 6月26日（土）：2名
 6月27日（日）：3名 6月28日（月）：0名

8. 視聴した時間帯について教えてください。

午前（9～12時）：7名 午後（13時～18時）：10名 夜間（18時～）：2名

9. 視聴場所について教えてください。

職場：11名 自宅：8名 その他：0名

10. 視聴端末について教えてください。

スマートフォン：3名 タブレット：0名 パソコン：16名 その他：0名

11. Youtube オンデマンド配信についてお教えてください。

順調に視聴できた：19名 視聴にやや手間取った：0名 問題があった：0名

12. オンライン開催についてご意見・ご感想をご自由にお書きください。

- ・最後に課長が言っていたように、「顔の見える関係」をオンライン研修で築くための方法はあるのだろうか。オンラインの良さもあるが、関係性を築く、という点では難しい。
- ・YouTube の講義は、自分の都合に合わせて視聴できることや、一時停止ができるので聞き取れなかった箇所やメモを取りたい時に便利だと思った。

- ・1人でも多くの人々が学ぶために手軽さもありハードルが低くなるので良いと思った。私自身は会場で学ぶのが一番だが、こうした形のものを複数回重ねていき、ネジを巻いていくことが自分には大切な学びになると考えている。
- ・皆さん、素敵なお声で素敵な講演だった。皆さまのお力の結集と成果に感動している。
- ・全てにおいて無駄が多い。簡素化することで、もっと伝えられることがあるのではないかと思う。
- ・マイク音と音質、バックミュージックの音量とのバランスを考慮いただくとより見やすい。話している声が小さく音量を上げたらバックグラウンドで流れる音楽が大きくビックリしたり、音質が悪いことで音がこもっていたり、聞き取りづらかったりする。対面と違いネット配信では特に重要だと思う。
- ・当センターでも研修を動画やオンラインで行いたいと考えている。まだまだこれからの準備だが参考になった。もしかしたら、やり方などご相談の連絡をするかもしれないので、その際には教えていただけるとありがたい。
- ・とても素晴らしい研修だった！クオリティも高く、正直びっくりしながら感心した。この研修の動画はとても内容がよく、法人内の他の職員にも紹介したいと思った。申込者以外の方にも配信できることができればとても嬉しい。この研修だけで終わるのがもったいないと思った。
- ・研修の構成も素晴らしく、非常にわかりやすく聴かせていただいた。
- ・オンデマンド配信だと都合の良い時間に視聴できるのでよかった。しかし、コロナ禍が落ち着いたらぜひ、対面の会ができると良いと思う。質疑や研修以外の情報共有も重要だと思う。人数の調整は必要になるかもしれないが、ZOOM等を利用して双方向の研修もよいと思う。